

1. 生活習慣の実態

ここでは、子どもの日頃の様子や生活習慣について、「自分一人で行える」「親がときどき手伝う(言う)」「親がよく手伝う(言う)」「ほとんど親がやる」「まだできない」の5段階でたずね、生活習慣それぞれについて子どもの自立度をみた。

●自立度が高いのは、排泄と食事(図2-6)

「自分一人で行える」の割合が最も高いのは、「トイレでの排泄や、そのあとしまつ」68.4%だった。これは調査対象に、排泄面でほぼ自立しているであろう小1生、小2生が含まれていることが要因と考えられる。つづいて「食事をこぼさず、ぎょうぎよく食べる」39.8%、「お風呂でのからだ洗い」37.6%の自立度が高かった。

一方、「ほとんど親がやる」の割合が高いのは、「家事のお手伝い」27.2%、それ以外の項目は、「親がときどき手伝う」の割合が高かった。「まだできない」の割合が高いのは、「明日の用意や準備をすること」13.0%、「約束を守ること」9.7%、「家事のお手伝い」6.5%で、全般的に「まだできない」の割合は低かった。

●女子のほうが自立している(図2-7)

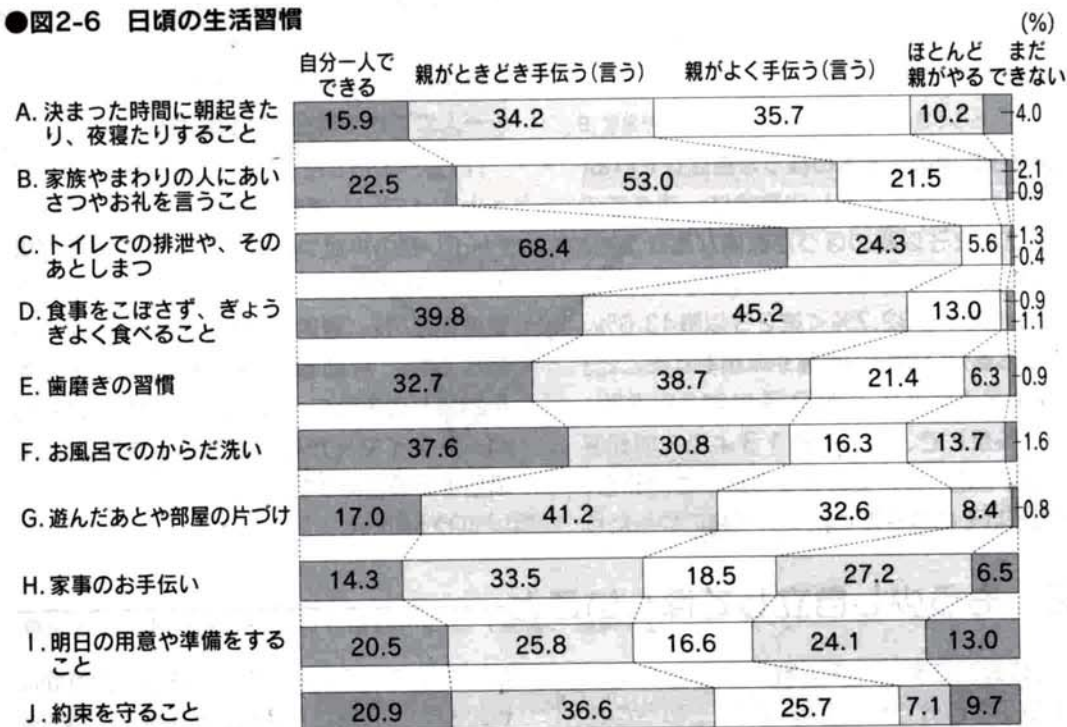
男女差をみると、10項目のうち女子の方が自立度が高い項目が七つ、男女差がない項目が三つとなっており、男子に比べて女子の方が生活習慣が自立していることがわかる。「自分一人で行える」の割合をみると、最も差の大きい項目は「食事をこぼさず、ぎょうぎよく食べる」(男子33.8%<女子46.1%、12.3%差)で、次いで「歯磨きの

習慣」(男子28.4%<女子37.1%、8.7%差)、「明日の用意や準備をすること」(男子16.8%<女子24.5%、7.7%差)、「トイレでの排泄や、そのあとしまつ」(男子64.6%<女子72.2%、7.6%差)が差のある項目としてあげられる。最も基本的な生活習慣で男女差が出ていた。

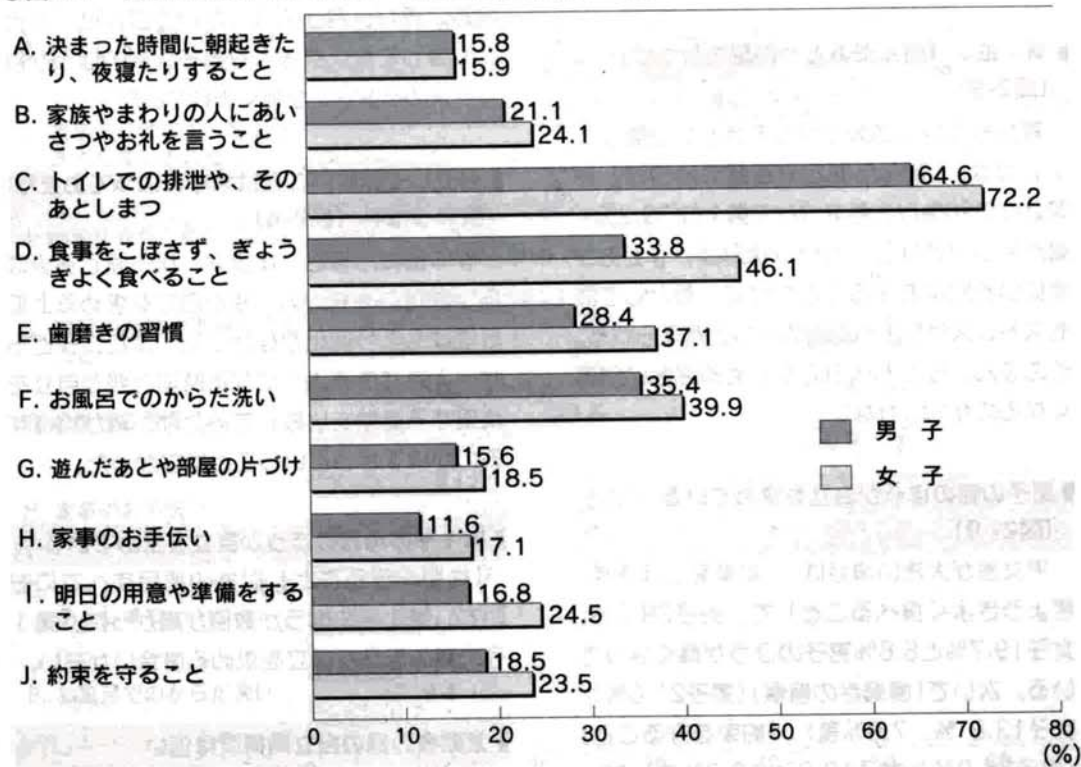
●自分一人で起床就寝できる割合は、学年が上がってもあまり増えない(図2-8)

「自分一人で行える」の割合が学年によってどのように変化するかをみると、①学年が上がってもあまり変化しない項目(1項目)、②5学年通してコンスタントに数値が高くなる項目(3項目)、③年長児から小1生で数値が高くなる項目(3項目)、④それ以外の項目(3項目)の四つに分けられた。①「変化なし」の項目は「決まった時間に朝起きたり、夜寝たりする」で、年少児11.7%から小2生18.7%へと5学年通して7%の上昇にとどまった。②(コンスタントに上昇)の項目は、「トイレでの排泄や、そのあとしまつ」「食事をこぼさず、ぎょうぎよく食べる」「歯磨きの習慣」で、これは成長とともにできるようになるのは当然といえる。③(年長児から小1生で上昇)の項目は、「明日の用意や準備をすること」(年長児9.7%<小1生40.9%、31.2%差)、「お風呂でのからだ洗い」(年長児38.2%<小1生58.6%、20.4%差)、「約束を守ること」(年長児20.2%<小1生32.0%、11.8%差)だった。このように小1生で自立度が高まる背景には、入学までに自立させたいという親の思いがあるようで、本調査の「現在育児をする上での悩みや気が

●図2-6 日頃の生活習慣



●図2-7 日頃の生活習慣(自分一人で行える割合)×性



かり」として、「入園や入学前の準備教育」をあげた人が年長児で21.0% と他の学年より多くなっていた。

▶ 第2子以降の子どものほうが自立している

「自分一人で行える」の割合は、すべての項目で第2子以降のほうが数値が高かった。とくに差が大きいのは、「お風呂でのからだ洗い」(第1子32.7%<第2子以降43.6%、10.9%差)、「明日の用意や準備をすること」(第1子15.6%<第2子以降26.3%、10.7%差)で、ともに第1子より1割程度高くなっている。上にきょうだいがいると、下の子はその姿をまねたり、一緒にやったり

2. もう少し自立してほしいこと

前の質問で聞いた生活習慣10項目の中で「もう少し自分でやってほしい」と思うことすべてに○をしてもらい、親が子どもにどういうことを自立してほしいと願っているのかをみてみた。

▶ 第1位は「遊んだあとや部屋の片づけ」(図2-9)

親がもう少し自分でやってほしいと思っているのは、「遊んだあとや部屋の片づけ」が第2位に20%以上差をつけて第1位(59.2%)。親が片づけてほしいと思う状況は、子どもが家にいる間中おきることだけに、親として最もストレスがたまる原因の一つと考えられる。そのぶん、子どもへ自立を求め度合いが高くなるのかもしれない。

▶ 男子の親のほうが自立を求めている(図2-9)

男女差が大きい項目は、「食事をこぼさず、ぎょうぎよく食べること」で、男子28.3%、女子19.7%と8.6%男子のほうが高くなっている。次いで「歯磨きの習慣」(男子21.6%>女子13.8%、7.8%差)、「約束を守ること」(男子26.0%>女子19.3%、6.7%差)だっ

してできるようになる場合もあるのだろう。

▶ 母親がパートタイマーの子どもは、一人でできる割合が比較的高い

「自分一人で行える」の割合は専業主婦、パートタイマー、常勤者で大きな差はないが、「トイレでの排泄や、あとしまつ」の結果【専業主婦66.4%<パートタイマー72.9%>常勤者68.7% (専業主婦とパートタイマーの差6.5%、常勤者とパートタイマーの差4.2%)】のように、専業主婦や常勤者よりもパートタイマーが高い割合を示す項目が10項目中6項目あった。

た。女子のほうが高いのは、「決まった時間に朝起きたり、夜寝たりすること」(男子30.4%<女子35.3%、4.9%差)、「遊んだあとや部屋の片づけ」(男子58.2%<女子60.3%、2.1%差)だけで、それ以外は男子のほうがすべて高い。前述の通り、男子のほうが自立度が低いことと関連してか、女子より男子の親のほうが自立を求める度合いが強く表れていた。

▶ 自立してほしいことは学年によってあまり変わらない(表2-4)

学年別にみると、年少児、年中児で多少ばらつきがあるものの、親が自立を求める上位5位はあまり変化がなかった。また、子どもが一人で行えるようになる時期と親が自立を希望する時期を比較してみたが、親が期待するのが早すぎるということとはなかった。

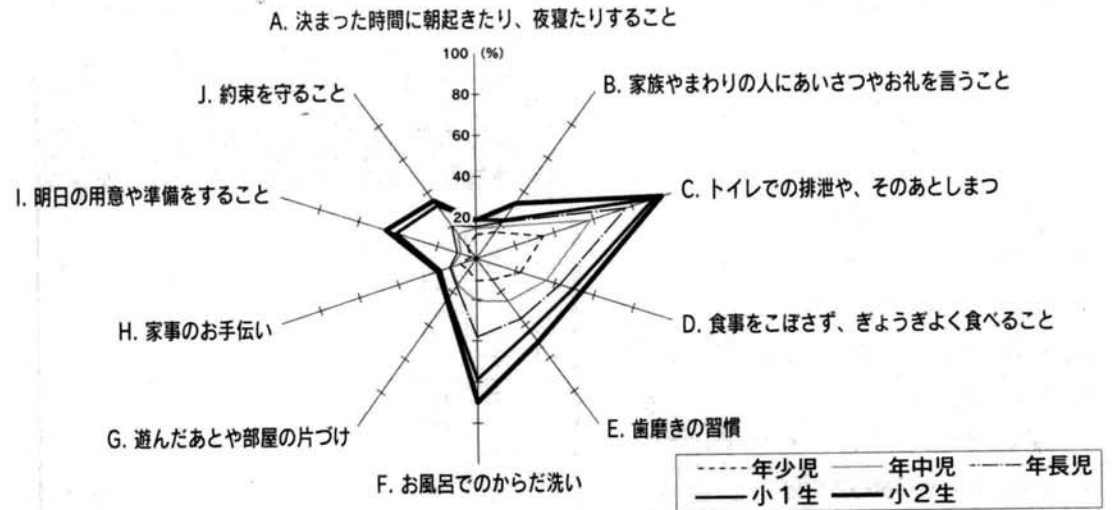
▶ 第1子の母親のほうが自立を求めている

「約束を守ること」以外の項目すべてにおいて、第1子のほうが数値が高かった。第1子の親のほうが自立を求める度合いが高い。

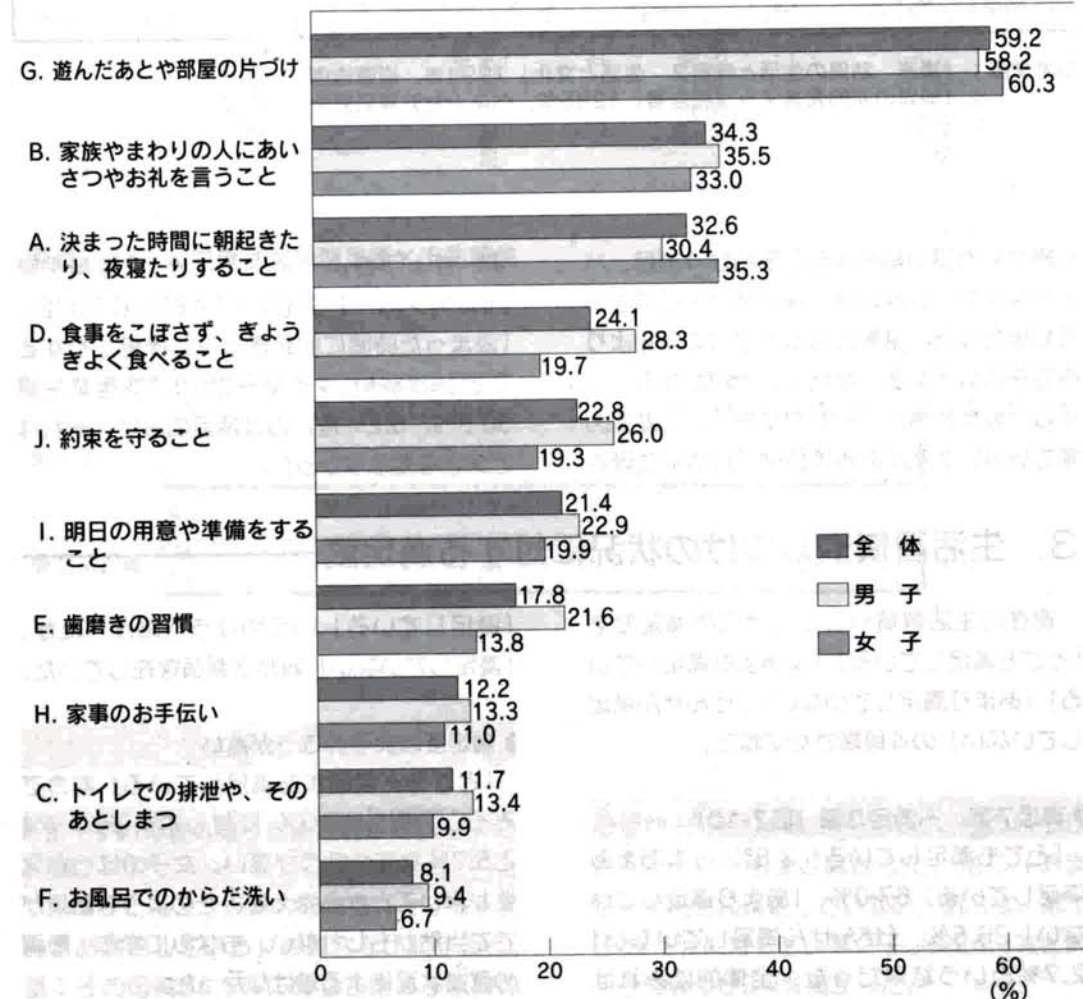
▶ 常勤者の親の自立期待度は低い

母親の就業状況別に比較してみると、専業

●図2-8 日頃の生活習慣(自分一人で行える割合)×学年



●図2-9 もう少し自立してほしいこと(全体・性別)



●表2-4 もう少し自立してほしいこと×学年

○印…自立できる目安の時期/△印は「自分一人のできる」まではいかないができるようになる時期

	年少児 3~4歳	年中児 4~5歳	年長児 5~6歳	小1生 6~7歳	小2生 7~8歳
	自立の 目安 順位	親の 希望 順位	自立の 目安 順位	親の 希望 順位	自立の 目安 順位
A. 決まった時間に朝起きたり、夜寝たりすること	△ 4	△ 3	△ 3	2	2
B. 家族やまわりの人にあいさつやお礼を言うこと	○ 3	2	2	3	3
C. トイレでの排泄や、そのあとしまつ					
D. 食事をこぼさず、ぎょうぎよく食べること	○ 2	4			
E. 歯磨きの習慣	5	○			
F. お風呂でのからだ洗い					
G. 遊んだあとや部屋の片づけ	○ 1	1	1	1	1
H. 家事のお手伝い					
I. 明日の用意や準備をすること			4	4	5
J. 約束を守ること	○	5	5	5	4

参考文献：「講座 幼児の生活と教育2 生活と文化」1994年、岩波書店
：「幼児の知的発達マップ報告書」1995年、ベネッセ教育研究所

主婦が最も高い割合を示す項目が4項目、パートタイマーが4項目、常勤者が1項目という結果だった。常勤者の母親が他の母親より自立を求める度合いが低いことがわかる。しかし、専業主婦、パートタイマー、常勤者の間で5%以上差がある項目は「食事をこぼさ

ず、ぎょうぎよく食べること」(専業主婦26.2%>パートタイマー19.6%、6.6%差)、「決まった時間に朝起きたり、夜寝たりすること」(パートタイマー36.0%>専業主婦30.8%、5.2%差)の2項目のみで、それほど大きな差はなかった。

3. 生活習慣やしつけの状況に対する満足度

現在の生活習慣やしつけ状況の満足度を「とても満足している」「まあまあ満足している」「あまり満足していない」「ぜんぜん満足していない」の4段階でたずねた。

▶満足7割、不満足3割 (図2-10)

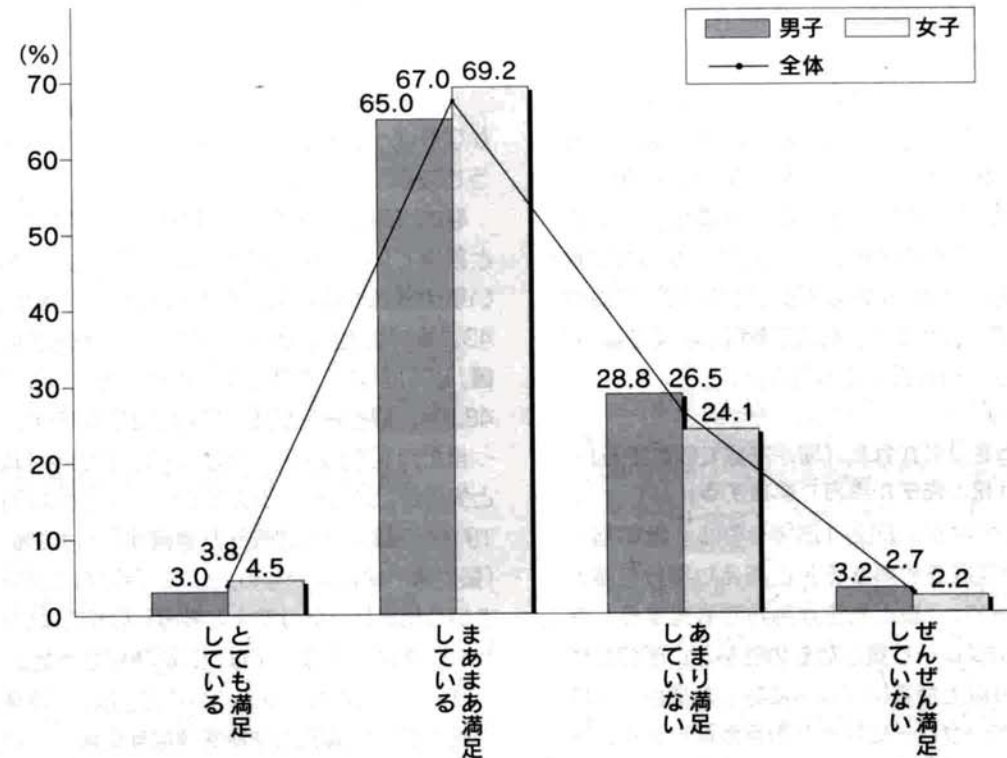
「とても満足している」3.8%、「まあまあ満足している」67.0%、「あまり満足していない」26.5%、「ぜんぜん満足していない」2.7%という結果だった。全体的にみれば

「満足している」割合のほうが高かったが、「満足していない」親が3割弱存在していた。

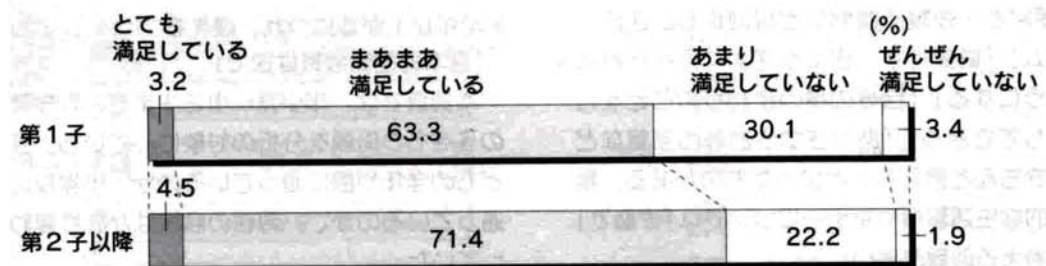
▶満足度は女子のほうが高い

「とても+まあまあ満足している」割合でみると、男子68.0%に対して女子73.7%と5.7%女子のほうが高い。女子のほうが発達早いことから考えて、そのような結果がでて当然かもしれない。ちなみに学年・母親の就業状況による差はなかった。

●図2-10 しつけ状況に対する満足度 (全体・性別)



●図2-11 しつけ状況の満足度×出生順位



▶第1子の母親のほうが満足度が低い (図2-11)

第1子と第2子以降の母親で「とても+まあまあ満足している」の割合を比較すると、第1子の母親66.5%に対して第2子以降の

母親が75.9%と第2子以降の母親のほうが9.4%=約1割ほど高かった。逆に「あまり+ぜんぜん満足していない」割合は、第1子33.5%に対して、第2子以降24.1%と第1子のほうが9.4%高かった。